自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修の際に事業所の考え、理念を伝え共有している。現職員に関しても年2回の管理者との面談時に理念に沿ってケアが行われているか、確認し合っている。	開設時に作成された理念を現在も大切にして掲げ、玄関ホールに掲示している。毎年度、理念に基づき各ユニット毎に目標を立てて実践に努めている。半期ごとに職員で目標の達成評価を行い、次年度への取り組みや課題を明確にし、理念とユニット目標を共有して実践につなげている。職員は、生活の中で利用者の残存機能を活かすよう関わり、生活の主体となることを意識してケアを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域行事の中止が多く交流する機会が少なかったが、毎年、施設主催の敬老会に町内の方から参加いただき、積極的に交流を行っている。	自治会に加入し、管理者は地域の一員として斑の組長を担い、積極的に自治会の活動に参加している。コロナ禍の影響により地域行事の中止や活動を自粛する中、現在も地域の方とは、回覧板のやり取りや散歩時に挨拶を交わしたり、畑の野菜作りを通して交流が図られるなど、顔見知りの間柄となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の方への理解」として毎年、町内と合同で認知症サポータ養成講座等を開催し、学びを深めていたが、今年度は実施出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、地域包括職員、社会福祉協議会職員、上越市介護指導係職員、家族会会長、ご利用者、で構成し、様々な意見を吸い上げ運営に役立てている。	現在はコロナ禍のため書面での開催としているが、感染状況により6月は対面開催とした。利用者の状況や活動内容、ヒアリハット・事故報告等を丁寧に報告している。委員の方には書面送付の際に意見記入用紙を同封して記載してもらい、意見・質問に対して丁寧に回答している。その内容は議事録にまとめ、いただいた意見はサービス向上に反映させている。	運営推進会議の議事録は委員に送付し、事業所にファイリングされ誰でも見ることができる。しかし、代表家族以外に資料は送付されていない状況であった。会議に参加していない家族へも議事録の送付を検討し、それにより更なるサービスの向上に取り組んでいくことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の交換を積極的に行い、事業所としてどのように取り組むべきかをアドバイス頂きながら運営に役立てている。	行政担当者とは、運営上の不明点や事務的な手続き等について、日常的に小さなことでもすぐに相談にのってもらっている。また、運営推進会議のメンバーであり、事業所の情報を伝えたり意見をもらうなど、共に利用者を支える良好な関係を継続できるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成29年度より委員会を立ち上げ、管理者、職員が一丸となり、身体拘束防止についてを学び、取り組んでいる。7月には委員会が中心となり研修を実施している。	身体拘束虐待防止委員会を中心に内部研修を実施している。利用者ケアについて、昨年度と比較して状態はどうか、振り返ることでケアの在り方を見直して職員の意識改革を図っている。管理者は、職員の何気ない声掛けであっても本人の行動を制限することのないよう、日頃より職員の言動に注意を払い、気になることがあれば適宜指導している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	平成29年度より委員会を立ち上げ、管理者、職員一丸となり取り組みを行っている。職員の人員不足も不適切ケアの原因となりうる為、早急に人員確保が必要と認識している。	身体拘束同様に内部研修が行われている。職員個々に不適切なケアに関して書面アンケートで振り返り、気づきをケアの改善につなげている。リモートで虐待防止研修に参加した職員が講師となり、資料を作成して内部研修を実施している。管理者は、人員不足も不適切ケアの原因と考えて人員の充足に尽力している。また、家庭環境等に配慮した勤務調整など、職員のストレスや負担が大きくなっていないか、日常的に気をくばり職員の話をよく聞くようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は成年後見制度を学ぶ機会がなかったが、今後も学びを持ち、ご家族に対し必要な情報を提供していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項の説明、重度化した場合の対応に係る指針、運営規定、利用料金等を十分な時間をかけご家族が疑問や不安のないよう説明を行い、ご理解頂いたうえで入所手続きを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉、態度、表情等を常に観察し、思いをくみ取る努力をしている。コロナ禍でご家族にお会いする機会も少なかったが、電話やメール等を活用し、都度意見要望等をお聞きし対応している。	利用者とは日常の関わりの中から思いをくみ取り、献立や過ごし方等に反映させている。家族との連絡は密に取り合い、受診時や電話連絡の際には事業所での様子を丁寧に伝えながら、意見や要望を聞き取るようにしている。今年度は実施できていないが、年1回家族向けアンケート「何かご意見ありませんか」を実施し、サービス向上に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談を実施し、意見要望を確認している。管理者は意見要望に対し、出来る限り解決が出来るよう本社へ働きかけている。	毎月のユニット会議や申し送り、カンファレンス等で、利用者のケアやその時々の課題等について意見を聞く機会があるが、管理者は、日常的に職員の意見や要望を聞くようにしている。職員から出された意見のうち、会社としての対応が必要なものは、管理者が職員の意見をまとめて挙げ、解決できるよう本社へ働きかけている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務態度を勘案し、昇給、賞与に反映させ、やりがいと向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上越市内外の研修へ積極的受講させるとともに、事業所の質向上に努めている。研修受講者は、研修内容を内部研修として他職員へ伝達研修を行い、業務に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流やネットワークつくりを積極的に行い、視野を広げ、様々な活動、勉強会等へ参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入所申し込み時に、ご本人やご家族から心身の状況、現在の困りごと、何を必要としているのかをお聞きし把握に努めている。その上で、安心した生活が出来るよう、ご本人やご家族と一緒に支援内容を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っていること、要望など時間をかけお聞きし理解に努めている。希望に沿ったサービスが出来るよう細かい部分まで報告し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を確認し、柔軟な対応で必要なサービスに繋がるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に役割を持ち、本人の力が十分発揮できるよう支援している。主に、畑や調理、裁縫、清掃、挨拶役に力を入れている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者から2ヵ月に1回、管理者から毎月、ご利用者の様子をまとめ、お手紙として発行している。面会時はゆっくり過ごされよう配慮している。	利用者の日頃の様子がわかるよう写真を掲載した広報誌や、利用中の様子をまとめた手紙を毎月家族へ送付している。面会時や電話連絡の際には、事業所での生活の様子を丁寧に伝え、安心してもらえるようにしている。受診の付き添いや必要品の準備等、家族の役割としてお願いするなど、共に支えていく関係作りに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方々に気楽に来所、又はお電話等頂けるよう配慮し、関係性が途切れないよう支援に努めている。	これまでの利用者の仕事や趣味、大切にしている人や場所等の情報は、本人・家族との会話の中から把握するよう努めている。コロナ禍で馴染みの人との交流が制限されているが、家族から誕生日にプレゼントが届いたり、手紙のやり取りを支援するなど、大切な関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員が仲介に入り関りを支援している。個別ケアの重要性も理解しつつ、集団での活動支援で顔を合わせる機会も多く設け、馴染みの関係を早い段階で構築できるよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談対応していることをお伝えしている。退所後でも、ご家族からご相談があれば支援することもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、表情や会話の中から思いの把握を行い、その情報を担当職員が積極的に発信し、職員間で共有し、支援に活かしている。	利用開始のアセスメントで、暮らし方の希望について本人・家族から聞き取っている。また、日々の関わりから丁寧に利用者と向き合い、思いや意向の把握に努めている。新たに得られた思いや気づきは、ノートやケース等に記録して職員間で共有しながら、介護計画に反映させるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との事前面談時に、ご本人、又はご家族から聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし、支援経過の把握等に努めている。	入居前に自宅等を訪問して利用者が過ごしてきた環境を把握している。また、担当ケアマネージャーやサービス事業所、病院からも情報収集し、アセスメントシートに記載して職員間で共有している。それまで行っていた調理や畑仕事、切手貼りなど、馴染みの暮らし方が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、有する力をしっかり観察、把握し、ご本人の力が十分発揮できるよう介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回評価し、6ヶ月又は状態変化時にはカンファレンスを実施している。ご本人、ご家族の意向も確認し、介護計画書を作成している。	担当職員がアセスメントやモニタリングを行い、定期的な見直しや評価を繰り返しながら計画作成担当者が計画書を作成している。作成前には本人・家族に意向を尋ね、プラン説明を経て同意を得ている。また、介護記録から本人の想いやケアの実践を確認したり、ユニット会議等で話し合う場を作ることで他職員の意見を取り入れ、計画書の内容共有にも繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護計画実施表、申し送りノートで日々の様子を職員間で共有している。状態変化時は支援方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望には柔軟に対応している。医療受診に関してはご家族のより対応している。ご本人ご家族と話し合い、適切な方法を見出す努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出等に制限はあったが、地域行事に可能な限り参加し地域の方々との交流を深める努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望するかかりつけ医となっているが、往診を希望される方が多い。かかりつけ医に受診をする際は必ず受診連絡表を作成し、施設での様子が分かるように状態報告を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を基本としているが、現在は全員が事業所協力医の訪問診療を月2回受けている。内科以外の受診は家族対応を基本とし、受診連絡票を活用しながら医療機関と情報連携を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時は看護師に報告し指示を受けている。24時間緊急連絡が可能であり、相談が必要な場合は速やかに連絡を行い指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の支援方法などの情報を速やかに医療機関へ提供し、管理者が担当医、看護師と情報交換を行っている。また、定期的に担当看護師やご家族と情報交換をおこない、早期退院がおこなえるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項の説明や重度化した場合の対応に係る指針を説明し、ご理解を頂き同意を得ている。ご利用者の状態に合わせてご家族と話し合いの場を設け、主治医と協力しながら希望に沿った支援を行っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」について説明し、本人家族の意向を確認している。入居後も状態変化に合わせて話し合いの場を設け、事業所で対応出来ること・出来ないことを伝えながら、本人の状態に見合った生活の場への移行を支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署員の指導によりAEDの使用方法を含めた心肺蘇生の実技講習を受講している。また、緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。	年1回全職員がAEDの使用方法や心肺蘇生法について消防署員から実技講習を受けている。「事故防止対策マニュアル」「緊急時の対応マニュアル」が整備され、各ユニット内には緊急時の対応フローチャートが掲示されている。また、事故防止委員会の中でヒヤリハットや事故報告の分析を行い、対策の見直しをするなど事故防止にも努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て火災や地震、水害を想定した避難訓練を実施している。地域の消防団との連携も強化し、非常時の協力体制が整備されている。	非常災害時対応マニュアルを整備し、年3回、火災、地震、水害の避難訓練を実施している。消防署立ち合い時は、消火器の使用方法についても講習を受けている。地域の消防団には事業所内を見てもらう機会を作り、協力体制の充実を図っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会を設置し、ご利用者に対する言葉使いやプライバシーに配慮した対応の徹底に努めている。また、広報誌や研修事例などの画像、写真掲載についても契約時に同意の確認を行っている。	接遇委員会を中心に、利用者の想いを尊重しながら丁寧な関わりや言葉掛けを行なっている。排泄介助や入浴の声掛けは一人ひとりに合わせた対応をさり気なく行い、希望があれば同性介助にも対応している。個人情報についても研修会を行い、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に寄り添い、ご本人の希望や関心事、趣味を伺い、何気ない会話や表情などを観察し、自己決定がしやすい場面つくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活に沿って生活をしていただいている。入浴は可能な限り希望時間に実施している。外出を希望される方がいれば散歩やドライブ等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある装いで過ごせるよう配慮している。身だしなみとして化粧を毎朝される方への支援や髪型や散髪への拘りなどにも対応している。いつまでもおしゃれを忘れないよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が出来る範囲で食事の準備や片付けを実施している。畑作業や収穫も一緒におこない季節の野菜を料理に取り入れ食事を楽しんでいる。	食材配達キットを活用しながら畑で収穫した野菜や「いただきもの」の食材を取り入れて調理している。年4回の食楽行事には、利用者にリクエストを聞いて季節に合わせた献立を作成している。利用者には皮むきや調理、盛り付け、テーブル拭き等、一人ひとりの出来ることに応じて力を発揮してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し把握に努めている。食べづらさや嚥下状態等、常に職員が観察し、一人一人の状態変化に対応出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操の実施、食後の口腔ケアの実施、義歯洗浄の実施に努めている。口腔内に不都合が生じた場合は、歯科往診で診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、ご利用者の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄の継続や一人一人に合わせた排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、誘導時間を調整したり声掛けを行うことで、トイレでの排泄や自立に向けた支援に繋げている。身体状況に合わせながら排泄用品を選択し、入居時はおむつを着用していた方がトイレで排泄できるようになるなど、改善されたケースが多くある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の心がけや散歩など体を動かすなどの運動量の確保に努めている。また、必要に応じ看護師、主治医と連携し、薬等でコントロールしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望に合わせ柔軟に対応している。同性介助での支援や入浴を拒むご利用者に対してはタイミングを図りながら入浴の支援を行っている。	入浴は週2回を原則とし、その日の体調や希望に配慮しながら予定を組んで対応している。ゆず湯や入浴剤を使用して楽しんでもらったり、1対1のコミュニケーションで会話をしながらゆっくりと入ってもらえるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人でくつろげるソファーをユニット内に設置しゆっくり休息が出来るよう配慮している。また、居室内はご自宅の家具や入所前の環境に近いレイアウトにし安眠に繋げられるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理指導の下、服薬支援をおこなっている。又、薬剤師の方から薬の効能、副作用などを細かく指導いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の強みを把握し、ご利用者が主役の生活環境となるよう支援している。挨拶を担当する方、歌を披露する方、雑巾を作る方、畑作業を担当する方、それぞれが役割を持って生活をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に合わせ散歩に出かけたり、お花見や紫陽花、紅葉見学に出かけている。誕生月には外食支援もおこなっている。選挙の投票を希望される方には投票会場まで同行している。	コロナ禍で以前のような外食や外出の機会は減ったが、天気の良い日は近所の散歩に出かけたり畑作業をするなど、日常的に外に出る習慣や地域の方との交流が失われないよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望されている方は現在いらっしゃらないが、希望があればご家族と相談し個人管理を支援していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から手紙が届いたり電話がかかってくる方がいらっしゃる。その際はゆっくり話が出来るようプライバシーに配慮し対応している。手紙の返信が出来るよう切手購入や投函等、希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節ごとの花々や行事の写真を飾り、季節感や温かい雰囲気が感じられるよう工夫している。ユニット全体の明るさは暗すぎず明るすぎずを心がけ、定期的に点検している。コールの音	リビングの大きな窓からは外の景色が見られ、家庭的な雰囲気の中で季節を感じながら過ごせる環境となっている。壁には利用者と職員で作った装飾や行事の写真が飾られ、ソファや畳の小上がりもあり、思い思いの落ち着ける場所で過ごすことができるような空間作りをしている。	事業所内に大きな倉庫はあるが、入りきらない備品がリビングの小上がりに置かれており、目の付く環境となっていた。また、脱衣室内の整理整頓や清掃が行き届いていない状況も窺えた。人員不足で日々の業務に追われる現状ではあるが、美化委員を中心に少しずつ環境整備に取り組まれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳コーナーを設け、一人一人が自分の居場所として好きなように自分の時間を過ごしている。隣ユニットで過ごす方もいて、気の合う仲間と交流することでそれぞれが思い思いに楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、使い慣れた物や馴染みの物、思い出の写真等を持ち込まれている。家具やベッドは一人一人の状況に合わせ配置している。	居室には使い慣れた馴染みのものの持参を家族に働きかけており、枕や毛布、家具などが自由に持ち込まれている。家族写真や装飾品が沢山飾られた居室や、利用者の好みに合わせたシンプルな部屋など、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畑作業、調理、清掃、雪かき、避難訓練、花壇の整備、雑巾やのれん作り、配膳下膳、号令、行事での挨拶等、あらゆる場面でご利用者から力をお借りし施設や職員を支えてくださっている。ご本人にしっかりとした役割がある。		